

うず巻くヤジと怒号

空港拡張の公聴会

高知空港拡張に伴う公聴会は六月五日、同空港内の特設テント会場で開かれ、三十九人(賛成九人、条件付き賛成五人、反対二十五人)の公述人が意見を述べた。当日は、地元の農業婦人や老人、青年をはじめ、約七百人が傍聴。ヤジと怒号がうず巻く。まるで反対市民集会といった状況だった。



まるで反対市民集会

ビヨンジ・ジャンボおじさんと黒べえくんが、早朝から公聴会を取材してくれましたから、今日はその状況を聞かせてもらいましょうか。ジャンボ・空港事務所の西側広場にテントを張って、公聴会の会場にしていたけど。朝早くから拡張反対の横断幕やプラカード、ハチ巻き姿の婦人や老人など農業者、反対市民がぞくぞく集り、大変な熱気でむしかえした。黒べえ・そこへ、田村の農業青年がトラクター十数台に「農地を渡すな」「青年行動隊」の旗をたて、シャツにもべったり、拡張絶対反対「ヘルメットには、決死隊」と、ものものしい格好で、エンジンもふかしてやってくると、拍手や激励が飛び、まるで反対市民集会といったところ。ビヨンジ・公聴会を中止さそうという動きがあったけど。ジャンボ・うん、反対市民連合が県知事に申し入れをしたけど、両者の条件が平行線、結局、もの分れのままの公聴会開催になってね。ビヨンジ・トラブルはなかったの。ジャンボ・私服、制服の警察官や機動隊も動員して、ものものしい警戒だったけど、反対市民連合も「過激な行動はさける」との方針で、大きなトラブルはなかったね。黒べえ・早い人は午前五時ごろから傍聴券を手に入れるため大変だったよ。ジャンボ・どしゃ降りの前日とちがって、この日はカラッと晴れあがり、コンクリートの反射熱と拡張反対の熱気でムンムンしていた。

たね。傍聴券(傍聴できる人は先着二百人に制限されていた)を発行する午前十一時には、約七百人が集った。黒べえ・ところが、早朝から順番を待っていた人の列に割り込みがあったというので、小ぜり合いが起った。ジャンボ・うん、反対市民と小ぜり合いになってね。結局、反対市民連合と運輸省、県が一時間にわたって話し合いを続け、「三十人だけ追加して傍聴を認める。そのほかの人は、会場のテントの外で傍聴を許す」ということでケリがついた。

ビヨンジ・公聴会で意見を述べた人は。ジャンボ・あらかじめ運輸省に申し込みをした四十一人のうち、条件付き賛成の二人が欠席したため、賛成九人、条件付き賛成五人、反対二十五人の三十九人(うち代理二人)が公述した。一人、六分間の制限時間で、次々に意見を述べたけど、受付順であつたため、始めの方に賛成の人が集中。

黒べえ・「百姓のことも考えろ」「もうける人だけが賛成か」などのヤジが飛び、公述が続いているうち飛行機の発着で聞きとれない。すかさず「騒音で聞えない」「今の音が聞こえるか」など、激

いやジ。ジャンボ・やっと反対の公述人の番がくると、「いいぞ」「その通り」などの合づち。再三、司会者から注意される場面もあつたね。黒べえ・エスカレートしたところで「機動隊と鉄条網で張りめぐらされた中では意見が述べられない」と主張者を追及。「鉄条網は申し訳けない。機動隊は移動させる」と運輸省も低姿勢。ジャンボ・賛成派とみられる傍聴人は、賛成公述がすむと、はや

ばやと叩きあげたため、反対市民集会といつたところだったね。結局、六時すぎまで延々と続いた。ビヨンジ・公聴会の意見は、どのように生かされるでしょうね。ジャンボ・主宰者である運輸省の野間補佐監は「それぞれの理由を、どう調整するかが眼目だ。参考にして空港の管理、運営につとめたい」とあいさつがあつた。黒べえ・反対市民連合は、そのあと集会をもって「闘いはこれから

だ。長い闘いになると思うが最後まで頑張りな」と氣勢をあげて暮れかかった家路へ散っていった。ビヨンジ・これから拡張問題はどんなになりそうなの。黒べえ・反対市民のなかには「公聴会は一種のショーだ。公聴会の前に県は土地売却の説明会もしている」と悲観的な見方をしているね。ジャンボ・今までの例ではね。おそろく公聴会が終つたあと、一〜一カ月半後には、国は決定告示

をし、用地買収の交渉がはじまるのではないかと、というのが大方の見方だよ。ビヨンジ・公聴会の意見を十分尊重し、住民と十分話し合つて、今後の方向を決めてもらいたいものです。ジャンボ・行政と住民の話し合いを十分もつて、民主的な方法で結論をだしてほしいですね。参考のために、当日の意見の要旨をのせますので、市民みんなで考えてみてください。

賛成産業発展のため必要

反対一坪の農地も渡さぬ

高知商工会、県観光連盟、県商店街振興組合連合会などの代表から「高知県は陸の孤島で、地理的に交通の便が悪い。このため、航空機を利用する必要性が強い。特に観光産業の面で大きな影響がある。高知県の発展のため必要だ。」

「急病や商取引きなど、緊急用務のため、スピードアップが要請されている。」

「利用客の増加や生鮮食料品の供給など、大量輸送の必要がある。」

「周辺整備や音源の軽減などで生活環境を極端に制限することはなく、さして迷惑をかけるまい」と発言。また、升久県企画管理部長は「増え続ける利用客をさばくため、ジェット機を就航させる必要があり、拡張せざるを得ない。用地補償は住民サイドで価格交渉する。騒音対策は試験飛行を実施したが、騒音対

賛成

「急病や商取引きなど、緊急用務のため、スピードアップが要請されている。」

「利用客の増加や生鮮食料品の供給など、大量輸送の必要がある。」

「周辺整備や音源の軽減などで生活環境を極端に制限することはなく、さして迷惑をかけるまい」と発言。また、升久県企画管理部長は「増え続ける利用客をさばくため、ジェット機を就航させる必要があり、拡張せざるを得ない。用地補償は住民サイドで価格交渉する。騒音対策は試験飛行を実施したが、騒音対

条件付き賛成

入空港地域対策協議会では、拡張は地元で迷惑をかけるが時代の要請で拒むことはできない。心配される騒音対策は、海から進入し海へ発進する方法が考えられている。松山空港では、この方式が成功している。用地買収や家屋移転には最大限の補償をし、地域開発など補償的施策が必要だ。」

港を利用する県民は「後進県の汚名返上のため必要だ。大量輸送、スピードアップは時代の要請で、国家的課題として推進すべきだ。反対の住民エゴを排除しなければ国家事業はできない。行政と住民が信頼を取りもどすべきで、住民が行政を信頼していない。」など、きびしい意見も述べられました。

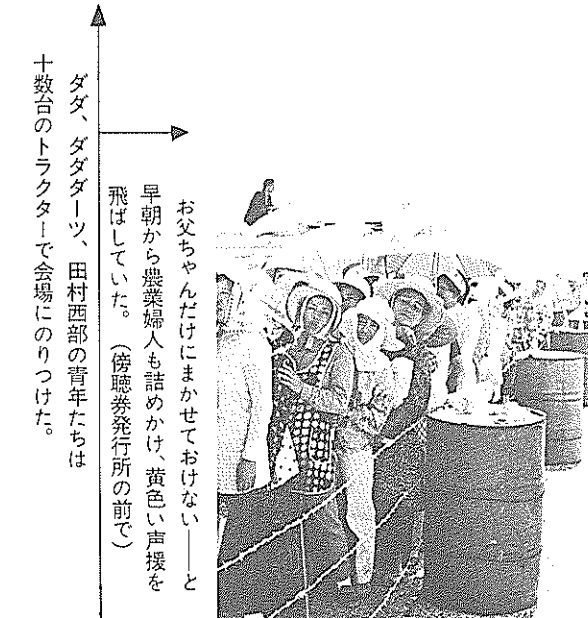
また、条件としては「農地を失った人への最大の補償、代換地転職をあっせんすべし。騒音のあるのは事実だが、科学技術で八五ホーン以下にできる。地元発展のため地方交付税への付加など公共補償もされたい。」などの条件が出された。



されました。

反対

田村、下田村、久枝などの市民は「もともと高知空港は戦時中、戦争の目的で強制的につくられた。久枝山はつぶされ、香美郡三島村は壊滅した。拡張により、また移転や土地を取り上げられるのは、たまったものでない。」下田村は三分の一の農地をとり、農民生活、集落の破壊だ。」



お父ちゃんだけにまかせておけない——と早朝から農業婦人も詰めかけ、黄色い声援を飛ばしていた。(傍聴券発行所の前で)

また、農業者や高知大農学部部の教授は「米だけでは生活できず、タバコ、ハウス、酪農などで生活をささえてきた。ハウスやタバコの適地は代換地のどこでもできるものではない。」長男も農業の後をついでくれることになった今希望を疎外される。」世界的な食糧

危機がいわれている。青年層を農業軽視に追いやることは農政の方向に逆行する。農業の繁栄は次の世代への義務であり責任だ。」など農地確保を方説。

杉本市長も「三十年間、荒れた土地を美田にし、やすらかな生活をしようとしている人たちが。市の発展を守っている田園をつぶして市の産業の発展はない。大多数の人の利益というところで、少数の人を犠牲にすることは民主主義を否定するものだ。市民の先頭にたつてたかう。」と表明。

市会議員も四人が公述「県知事は一人の犠牲者も出さんと約束した。何ら対策も示さず一方的な公聴会を開き、強制的な土地の収用をはかっている。公共性の名のもとに市民を犠牲にしている。」騒音、大気汚染など、なんら対策はなく、現代の科学ではどうすることもできない。住民が納得するまで一切の事務を止めるよう要望する。」

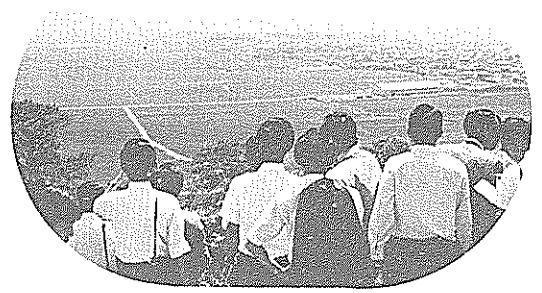
行による騒音測定は中立でない協会の行ったものだ。再飛行して住民の総意を聞く公聴会をもう一度すべきだ。」など航空機の事故と騒音公害に集中。

もの。やすらぎを身え、体力、精神力でなおす一面がある。病院環境の破壊だ。」

な人でも狂う。よい空気のなかで、すくすくと育てたい。それが母親の願いだ。」せまい日本、そんなに急いでどこへ行くといいたい。第二の川西市になることはごめん

に加盟する必要はない。「海から進入し、海へ発進するといっても松山空港と高知空港は方向がちがう。」三千ほどの滑走路を、さらに五百回再拡張して、昭和五十五年にはエアバスを入れる計画だ。」

市の未来像づくり 表情のある町・市民の町



総合的・科学的にメス

大学教授陣が診断

表情のある町づくりを——。六月七、八日の二日間、高知大高知短大、高知女子大の教授ら四十人で組織する自治体問題研究所(理事長、西沢高知大文理学部長)に南国市を診断してもらった。

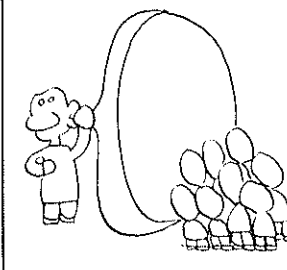
伝統、高い文化遺産を誇る都市。③みどりや光と水を守る都市。④新しい市民の都市を四つの柱に基本構想をまとめようというもの。

参加、全体会で杉本市長は「総合的、科学的にメスを入れ、立地条件にあった都市づくりをしたいので、その方向を示してほしい。」と要請。関田市長も「南国市は豊かな自然、大きな可能性をもっており、いろんな意味でねらわれている。国、県の計画ではなく、南国市の実態、自然条件にあった都市づくりが必要だ。外からの処方箋でなく、最終的には市民が決めることだが、専門的立場でお役に立ちたい。」と述べ、今後の方針を①国、県との関係、②市の行政課題過去の実績、効果を測定、③住民の要求と背景を明らかにするため住民の肌につれ、地域の現状を把握してすすめることとした。

あなたの顔 顔を差しあげます

広報紙にのった、あなたの写真を差しあげます。企画財政課広報係へ、どうぞ——。

あなたの声を市政に生かそう 市政こん談会



市政をつくるのは、あなたです。市長を囲んで、あしたの南国市を一語に話し合ひましょう。会の催しを希望の地区は代表の方が、ご連絡ください。企画財政課秘書係